

椿姫

La Traviata

オペラパレス | 5 回公演 | 全3幕 (イタリア語上演/字幕付)

初 演：1853 年3月6日 ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場
作 曲：ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)
台 本：フランチェスコ・マリア・ピアヴェ Francesco Maria Piave

演目選定にあたって

オペラ作品としても、オペラの醍醐味を味わっていただくためにも“原点”と言える名作。2002/2003シーズン開幕公演として登場したプロダクションで、イタリアを代表するオペラ演出家ルーカ・ロンコーニが、美しく知的な舞台を作り上げています。綿密な心情描写に定評があり、本作品でも連続性のある舞台や人物の動きを通して、一貫した流動性を表現しています。華やかな社交界から孤独感に満ちたヴィオレッタの寝室への舞台転換など舞台上の装置をスライドさせ、登場人物の心が時間と共に流れるさまを見事に描いています。歌手陣には、ヴィオレッタ役で定評のあるパトリツィア・チョーフィに加え、世界で活躍するアジア出身歌手の中から、ウーキュン・キムがアルフレードで新国立劇場初登場となります。注目の指揮には、わが国指揮界の中堅世代を代表する広上淳一が新国立劇場に初登場となります。国内外で培った丁寧な音楽づくりにどうぞご期待ください。

作品解説

イタリアオペラの中でも不動の人気を誇るオペラ。第1幕夜会のシーンで歌われる〈乾杯の歌〉はあまりにも有名。原作は、アレクサンドル・デュマ・フィスが19世紀のパリに実在した高級娼婦をモデルにして書いた小説《椿の花を持つ女》に拠る同名の戯曲です。ヴェルディの活動を3期に分けるならば、この作品は『リゴレット』『イル・トロヴァトーレ』とともに中期傑作群の一つに数えられます。芝居を観て感激したヴェルディは、それまで壮大な歴史物語や文豪が描いた英雄をテーマに取り上げていたのに対し、1850年当時に時代を設定して同時代に生きる純粋で不幸な女性をオペラのヒロインに据えた“現代劇”の誕生となりました。音楽的にも、この作品において伝統的なオペラ形式に対して革新を試みており、音楽は形式よりも登場人物の感情表現に重きが置かれて当時としては斬新で現代的なオペラとなりました。タイトルロールであるヴィオレッタ役は全幕を通しほぼ出ずっぱりで、演技力に加えて、華やかなコロラトゥーラの技巧から情感豊かな表現力、死を目前にしたドラマチックな声まで要求される難役です。悲劇を感じさせる前奏曲。1幕で歌われる〈乾杯の歌〉、〈花から花へ〉などオペラファンならずとも聞き覚えのある曲が並ぶ超人気作品です。

あらすじ

パリの高級娼婦ヴィオレッタは、南仏の富豪の息子でパリ遊学中のアルフレードから求愛を受けるが、彼の真剣な愛に当初ためらいを覚える。しかしその真摯な愛に打たれて、心を開く。その後ヴィオレッタとアルフレードが郊外で一緒に暮らしているところに、アルフレードが留守の間に、彼の父ジェルモンが訪ねてくる。彼はヴィオレッタに、アルフレードの妹の結婚に差しさわりがあるので、このスキャンダラスな関係を絶つように訴える。アルフレードへの愛のために彼女はつらさをこらえて同意し、アルフレードに一方的な別れの手紙を残して去る。パリに戻ったヴィオレッタがかつてのパトロンであるドゥフォール男爵とパーティーに出かけると、アルフレードが現れ、彼女の不義をののしる。そこにジェルモンがやってきて、息子を叱責する。時が経ち、肺病の進んだヴィオレッタは病床にある。彼女に宛てた手紙の中で、ジェルモンは息子のために彼女を犠牲にしたことを認め謝罪する。その病床にアルフレードが入ってきて許しを請う。彼は自分たちの残りの人生を幸せに一緒に過ごそうと約束する。そのとき彼は、ヴィオレッタの病がどれほど重いかを知る。彼女はアルフレードの言葉に感激し、ほんの少しの間力を出して立ち上がるが、やがて倒れて息絶える。



2002年公演より

G. ヴェルディ

椿姫

La Traviata / Giuseppe Verdi

全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	広上淳一
Conductor	Hirokami Junichi
演出……………	ルーカ・ロンコーニ
Production	Luca Ronconi
装置……………	マルゲリータ・パッリ
Set Design	Margherita Palli
衣裳……………	カルロ・マリア・ディアッピ
Costume Design	Carlo Maria Diappi
照明……………	セルジオ・ロッシ
Lighting Design	Sergio Rossi
ヴィオレッタ……………	パトリツィア・チョーフィ
Violetta Valéry	Patrizia Ciofi
アルフレード……………	ウーキュン・キム
Alfredo Germont	Woo-Kyung Kim
ジェルモン……………	ルチオ・ガッロ
Giorgio Germont	Lucio Gallo
フローラ……………	小野和歌子
Flora Bervoix	Ono Wakako
ガストン子爵……………	樋口達哉
Visconte Gastone	Higuchi Tatsuya
ドウフォール男爵……………	小林由樹
Barone Douphol	Kobayashi Yoshiki
ドビニー侯爵……………	東原貞彦
Marchese D'Obigny	Higashihara Sadahiko
医師グランヴィル……………	鹿野由之
Dottor Grenvil	Shikano Yoshiyuki
アンニーナ……………	渡辺敦子
Annina	Watanabe Atsuko
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2011.2/14 (月) 6:30 2/23 (水) 7:00
 2/17 (木) 2:00 2/26 (土) 2:00
 2/20 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 21,000円・A: 15,750円・B: 10,500円・C: 6,300円・D: 3,150円

【前売開始】2010.10/9 (土)

椿姫

La Traviata / Giuseppe Verdi

指揮：広上淳一

Conductor : Hirokami Junichi

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールに優勝し、国際的な活動を開始。ノールショピング交響楽団首席指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、リンブルク交響楽団首席指揮者、コロンバス交響楽団音楽監督を歴任する傍らフランス国立管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、ウィーン交響楽団など欧米各地で客演。2007年夏にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本に招聘され、ハイドンとラフマニノフ、08年5月には小澤征爾の代役として急遽、水戸室内管弦楽団の指揮台にたち、モーツァルト、ベートーヴェンほかのプログラムとともに絶賛を博した。オペラ指揮の分野でも1989、90年のシドニー歌劇場におけるヴェルディの『仮面舞踏会』や『リゴレット』が高く評価されたのははじめ、最近では藤原歌劇団公演『椿姫』、関西二期会公演『フィガロの結婚』、日生劇場『後宮からの逃走』、『利口な女狐の物語』が記憶に新しい。新国立劇場初登場。



演出：ルーカ・ロンコーニ

Production : Luca Ronconi

チュニジア・スース生まれ。ローマで演劇を学んだ後俳優として活躍。1963年演出家に転身、斬新な作品を次々と発表し、鬼才演出家として名を成す。67年トリノのテアトロ・レージョでオネゲル『火刑台上のジャンヌ・ダルク』などを手掛けてオペラの演出に進出。ミラノ・スカラ座に73年『ワルキューレ』でデビュー、77年にはアバド指揮『ドン・カルロ』の成功でオペラ演出家としての名声を確立、88年ムーティ指揮『ウィリアム・テル』で全幕バックをスライドで構成し話題を集めた。他の演出作品は、ザルツブルク音楽祭の『ドン・ジョヴァンニ』、ミラノ・スカラ座の『ナクス島のアリアドネ』などがある。ルキーノ・ヴィスコンティたちの後を受けた第二代として独自の世界観と美学を以って、イタリアを中心に世界の主要歌劇場で活躍。74年から76年までヴェネツィア・ビエンナーレの演劇部門の監督、98年からはミラノのピッコロ劇場の芸術監督を務めている。

椿姫

La Traviata / Giuseppe Verdi

ヴィオレッタ: パトリツィア・チオーフィ

Violetta Valéry : Patrizia Ciofi

シエナ生まれ。これまでにミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、パリ・シャトレ座、マドリッドのレアル劇場、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『椿姫』ヴィオレッタ、『ファルス・タッフ』、『ランメルモールのルチア』タイトルロール、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『タンクレディ』アメナイーデ、『ポッペアの戴冠』タイトルロールなどを歌っている。2010年にはバルセロナで『連帯の娘』マリ、ウィーンで『リゴレット』ジルダ、11年にはサン・ディエゴで『ばらの騎士』ゾフィー、ビルバオで『ロミオとジュリエット』ジュリエットなどに出演予定。新国立劇場初登場。



アルフレード: ウーキュン・キム

Alfredo Germont : Woo-Kyung Kim

ソウル生まれ。同市の漢陽大学、ミュンヘン音楽大学で学ぶ。2003/2004シーズンよりザクセン州立歌劇場の専属歌手。バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなどに出演。『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『椿姫』アルフレード、『リゴレット』マントヴァ公爵、『ナブッコ』イズマエーレ、『オテロ』カッシオ、『ファルス・タッフ』フェントンなどをレパートリーとする。今後は、2010年バイエルン州立歌劇場で『椿姫』、ザクセン州立歌劇場で『ファウスト』、ハンブルク州立歌劇場と2011年バイエルン州立歌劇場で『ラ・ボエーム』、ザクセン州立歌劇場で『オテロ』、2012年トゥールーズで『皇帝ティトゥスの慈悲』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場初登場。

ジェルモン: ルチオ・ガッロ

Giorgio Germont : Lucio Gallo

イタリアのタラント生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレボレッロ、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョ、『フィデリオ』ドン・ピツァアロなどレパートリーは幅広い。今後の予定としては、ベルリン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場およびウィーン国立歌劇場で『トスカ』、英国ロイヤルオペラ『ジャンニ・スキッキ』などがある。新国立劇場には『西部の娘』『ドン・ジョヴァンニ』『オテロ』に続き4回目の登場。



フローラ: 小野和歌子

Flora Bervoix : Ono Wakako

東京出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。2000年日生劇場オペラ教室『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル役でオペラデビュー。04年よりローマに留学、翌年から2年間チューリッヒ歌劇場インターナショナル・オペラ・スタジオに所属。06年アダム・フィッシャー指揮『利口な女狐の物語』でチューリッヒ歌劇場デビュー。同劇場でサンティ指揮のザンドナーイ『フランチェスカ・ダ・リミニ』ズマラーグディに急遽代役に抜擢された。08年『ばらの騎士』オクタヴィアンでローマ歌劇場デビュー。第20回五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、09年夏には、ドイツのバート・ヴィルトバードのロッシェニ・オペラ・フェスティバルに参加した。ローマ在住。新国立劇場初登場。